

【無形民俗文化財】

名 称	ひがしてら おにぼし ぎょうじ 東寺の鬼走り行事
所在の場所	宗教法人長壽寺 湖南省東寺
保護団体	東寺の鬼走り行事保存会

文化財の説明

鬼走りは、毎年1月年頭に行われる長壽寺の悔過法会である。地元では、オコナイとも呼ばれているが、法会の最中に唱えられる地蔵菩薩の真言から「オンカーカー」と呼ぶ人もいる。無病息災、五穀豊穰、村内安全を願う「修正会」と厄除息災を祈願する「追儼」、村の成人式を兼ねており、鬼子と呼ばれる小学6年生ほどの男児が赤鬼、青鬼、茶鬼に扮して武具と松明を手に疫神を追い払う所作をする。

鬼子は、元来は村の男児が15歳になったときに役割を担うもので、しかも長男しか出来ないものであった。男児は、鬼子の役割を果たした後、村で一人前として扱われる。

評価

東寺の鬼走りは、古代から厳修された国家鎮護、五穀豊穰を目的とした長壽寺の修正会と鬼子による疫神を祓う追儼、そして村落の通過儀礼と深く結びついたオコナイ行事として極めて重要である。特に鬼子は、村の入り口に吊るして疫神の退散を願う勧請縄吊り行事を主導する役割をも担っており、村の安全保護に欠くことのできない存在として現在も人々に意識されている。また当祭祀を支える長老制、年齢階梯制も遵守されており、村落の組織構成を知る上でも誠に貴重である。また村人自らが拵える椿の花、オデンと呼ばれる供物も修正会の荘厳の特徴をよく示している。

少子化が進むなか、先人たちが村の安全と子どもの成長を祈願、祝福する村落の伝承行事として本市の無形民俗文化財として指定するにふさわしいと評価するものである。



赤鬼（撮影日：2025. 1. 12）



青鬼（撮影日：2026. 1. 11）

【無形民俗文化財】

名 称	ひらまつ 平松のぼんのこ・へんのご祭 <small>さい</small>
所 在 の 場 所	松尾神社（摂社 三宝荒神社） 湖南省平松
保 護 団 体	平松のぼんのこ・へんのご祭保存会

文化財の説明

ぼんのこ・へんのご祭は、松尾神社（摂社さんぼうこうじんしゃ三宝荒神社）の祭礼行事として毎年7月31日に行われている。

ボンノコ・ヘンノコは、男女の性器と意識されており、ボンノコはわらを巻きその上に笹を巻き付けた竹の輪で女性器、ヘンノコは木製で男性器をあらわしている。平松区の小学生男児がボンノコ・ヘンノコを担ぎ、「ボンノコ ヘンノコ サクエモンノ ナスビヤーイ」と囃しながら集落内を練り歩き、厄を祓う。火難厄除のまつりとして平松区で継承されている。

評価

本祭礼は以前、地区内の男児によって担われていたという伝承を持っており、本市朝国ではイチダイショウからハチダイショウと呼ばれる8人（小学1年生から中学2年生の子どもたち）が輪回しといって茅の輪ちのわを持って各家を訪問し、茅の輪ちのわを回していた。このように昭和30年代までは地域の共同体において多く見られた子ども組は、年中行事や祭礼の際に集って組をつくり、年長者の指揮のもと一定の村仕事に従事した。村内の経営に子どもの時から参加して成長して一人前の村人になるための教育的な機能をも併せ持つ組織でもあった。

火災から村の安全を守るのは勿論のこと、不特定多数の人々が往来する街道の沿いの村々にとって疫病退散もまた切実なものであった。多産や豊穰の力を持つと信じられる性器の形状を模したボンノコ・ヘンノコを子どもたちが担ぎ、旧東海道を練り歩く当祭礼は街道に残る厄除けの貴重な祭礼行事の一つであり、本市の無形民俗文化財として指定するにふさわしいと評価するものである。



ボンノコ・ヘンノコ



お渡りの様子